



お葬式豆知識

又私どもではお客様との大切なご縁をつなぐこと、そしてお葬式に関する正しい知識を持つていただくために春夏秋冬の年4回『だいこう通信』というニューズレターを作成しています。この通信の中の連載コラム『お葬式豆知識』がすごく喜ばれ、保存されている方も多くいらっしゃいますのでいくつご紹介をさせていただきますね。

○遺影について

時間の限られた葬儀の準備なかで納得のいく写真を選ぶのは負担がかかります。事前に写真を決めておくのも一つの方法です。背景や服装が気に入らない場合は、加工することが出来ますので心配りません。ポイントは『本人のお顔が大きくはつきり写っていること』、葬儀で使用する遺影写真は大きく引き伸ばして作成するからです。

○葬儀につけるアクセサリ

男性はネクタイピンやカフスボタン等は身につけないのがルールです。女性の場合、和装の時は結婚指輪以外は何もつけないください。ファッションリングや光るカットを施したリングもNGです。洋装の時は真珠のネックレスがマナーですが、必ず一連のものにしてください。二連のものは不幸が重なることを連想させてしまいます。

○お線香の意味

お線香の香りは宗派にもよりますが、故人様の食べ物と考えられているので、亡くなってから仏の世界に旅立つまでの四十九日間は絶やさずにお線香をたいておこうという習慣があります。最近では様々な香りのお線香がありますので、故人様が好きだった香りが混ざったお線香はきつと喜んでもらえるのではないのでしょうか。

お葬式は最後の恩返し

ご家族が亡くなられてからお葬式の準備をされる方も勿論いらっしゃいますが、ご家族が高齢の方がいらっしゃって『亡くなること』を前提にお葬式の準備を進めるために弊社を事前にお調べになるお客様が多くいらっしゃいます。

『亡くなること』を前提にお葬式の準備をされているのか？という罪悪感を感じられる方も多いのですが、私自身それは罪悪感であるとは考えていません。罪悪感を感じるの、それほどその方のことを想っていて、その人を失いたくない気持ちの表れな

のです。その大切に思う気持ちを大切に『最後の恩返し』を考えることは決して間違ではないです。

お葬式に対する想い

私たち重吉葬儀社は、最後の恩返しであるこのお葬式を『感謝の気持ちが溢れるあなたにかいもの』にしたいと考えています。亡くなられる方を送るだけではなく、ご家族の『ありがとう』という感謝の気持ちが溢れるお葬式、そしてお集まりいただく皆様から『あなたにかいお葬式だったね』と言っていたようなお葬式にすることが私たちの想いです。

近年は、ご家族の都合ばかりが優先されたお葬式の小規模化や軽視化もすすみ、お葬式は要らないという声までもが出てきました。

正しいお葬式を後世に残す

亡くなった人をないがしろにせず『命は尊いもの』、お葬式は尊いもの』ということを伝え続け、後世に『正しいお葬式を残していくこと』も長い間お客様から選ばれ続けた弊社の使命であると考えています。

今でも忘れることの出来ないお葬式があります。見習いの時に初めて立ち会わせていただいたお葬式の最後のお花入れの時間、親族でもなく知り合いいでもないあるおばあさんのお葬式で何故か涙が止まらなくなりました。

「ありがとうーおばあちゃんー」「おばあちゃんの子でよかったよー」「産んでくれてありがとうー」「今までありがとうー」「いっぱい遊んでくれてありがとうー」「いろんなところに連れて行ってくれてありがとうー」

それはあなたがたい時間と空間で、感謝が溢れるお葬式で身体中に電気が走った瞬間でした。と同時に、こんなに素晴らしい仕事にこれから携わることができるといふ灯りが点り「自分も早く一人前になつてお世話をさせて頂きたい」と強く感じました。

私の父はまだ現役です。親を送ったこともなければ、子を送ったこともない私にはどんな心境になるのか計り知れませんが、皆さまの支えになり少しだけでも元気と笑顔を取り戻して頂くためにこれからも自分の使命を全うしていきたいと考えています。



株式会社 重吉葬儀社 代表取締役社長 重吉晃守

- 創業) 明治40年
- 法人設立) 平成4年
- 本社所在地) 石川県小松市茶屋町1106番地
- 運営式場) セレモニースクエア大光 / 大光別館家族葬ここのわ
- 式場所在地) 石川県小松市園町口37-1
- 事業内容)
 - 葬儀・法要を中心とした葬祭事業
 - 当社式場での葬儀 / 提携式場での葬儀 / 自宅での葬儀 / 社葬・合同葬 / ホテル等でのお別れの会・偲ぶ会 / 回忌法要・法事
 - 企業・団体へのセレモニーサポート (法人・団体指定店契約先)
 - 葬儀会館の運営
 - 霊柩自動車の運送事業